

ひだゼロカーボンガイドライン



岐阜県飛騨市

(令和7年12月策定)

目 次

第1章 ガイドライン策定の趣旨と背景	4
(1) 飛騨市が目指す「ゼロカーボンシティ」とは	4
(2) ひだゼロカーボンガイドライン策定の趣旨	5
(3) 飛騨市における家庭部門の CO ₂ 排出の現状	5
(4) 地球温暖化が飛騨市の未来にもたらす具体的な影響	6
第2章 【知識編】ゼロカーボンと暮らしのつながり	8
(1) ゼロカーボンの基礎知識：排出量実質ゼロとは？	8
(2) 飛騨市のエネルギー：再エネと省エネの基本的な考え方	9
(3) 地域資源を活かすエコアクション：森林や水の恵みと脱炭素	10
(4) 市が推進する重点施策と市民の関わり方	11
(5) 飛騨市の未来を創る若者たちからのメッセージ（古川中学校連携事例）	12
第3章 【実践編】楽しく取り組むゼロカーボンアクション	13
(1) ひだゼロカーボンアクションの推奨：行動の理念とステップ	13
(2) 日常生活でできる 20 のゼロカーボンアクション	14
(3) 大きな効果を生むアクション：EV 等次世代自動車・高効率機器への転換とメリット	15
(4) ひだゼロカーボンアクションポイント：制度の目的と市民へのメリット	16
(5) ひだゼロカーボンアクションポイント：ポイント付与の仕組みとルール	18
(6) ひだゼロカーボンアクションポイント：ポイントの利用方法と地域内経済循環への貢献 ..	19
(7) 市民のアクションが創る飛騨市の未来	20

第1章 ガイドライン策定の趣旨と背景

（１）飛騨市が目指す「ゼロカーボンシティ」とは

本市は、国際的な潮流と地球温暖化の深刻な影響を踏まえ、美しい自然と伝統文化が育む「文化が薫る、活力とやすらぎのまち」を持続可能な形で未来へ引き継ぐという決意のもと、令和4年3月9日に「飛騨市ゼロカーボンシティ宣言」を表明しました。

この宣言は、地球温暖化の主因とされる二酸化炭素（CO₂）などの温室効果ガスについて、2050年までに市内の排出量を森林などによる吸収量を差し引いた合計で実質ゼロとする、という目標を市民・事業者・行政が一体となって取り組むことを示したものです。

地球温暖化の影響により、この30年間で市内の年平均気温が約0.7℃上昇しました。その結果、真夏日や猛暑日の増加、降雪量の減少が見られ、観光・レジャー産業や特産品の生育への影響など、飛騨市の地域経済と生活に具体的なリスクをもたらしています。

「ゼロカーボンシティ」の実現は、単なる環境規制ではなく、この危機を乗り越え、地域の社会や経済をより良くしていくための「チャンス」として捉え、市民の皆様の協働のもとで進められる重要な課題です。



（２）ひだゼロカーボンガイドライン策定の趣旨

本市は、「飛騨市ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、さらに、令和６年３月には、その実現に向けた方向性を明確にするため「飛騨市脱炭素推進ビジョン」を策定し、目標値、重点施策、推進体制などを具体的に整理しました。

しかし、脱炭素の取り組みを進めるうえで最大の課題は、環境問題が市民一人ひとりの「自分ごと」になりにくいという意識の壁にあります。本ガイドラインは、この課題を乗り越え、脱炭素をもっと身近で、楽しく、そして無理なく続けられる地域の仕組みへと転換していくことを目的としています。

そのために、本市では次の二つの柱を設定しました。第一に、脱炭素の基礎知識や身近な取り組み方を分かりやすくまとめた「**ひだゼロカーボンガイド（別冊）**」を作成し、市民の皆様が日常生活の中で学びながら行動につなげられる環境を整えます。第二に、楽しみながら継続できる仕組みとして「**ひだゼロカーボンアクションポイント**」を導入し、身近な脱炭素行動を可視化・評価することで、参加の輪を広げていきます。

本ガイドラインは、これら二本柱を通じて「脱炭素を市民全員の行動へと広げること」を最終的な目的とし、飛騨市がめざす持続可能で豊かな未来につながる実践的な道筋を示すものです。



（３）飛騨市における家庭部門のCO₂排出の現状

飛騨市がゼロカーボンシティの実現を目指す上で、まず市内のCO₂排出構造を正しく理解することが重要です。

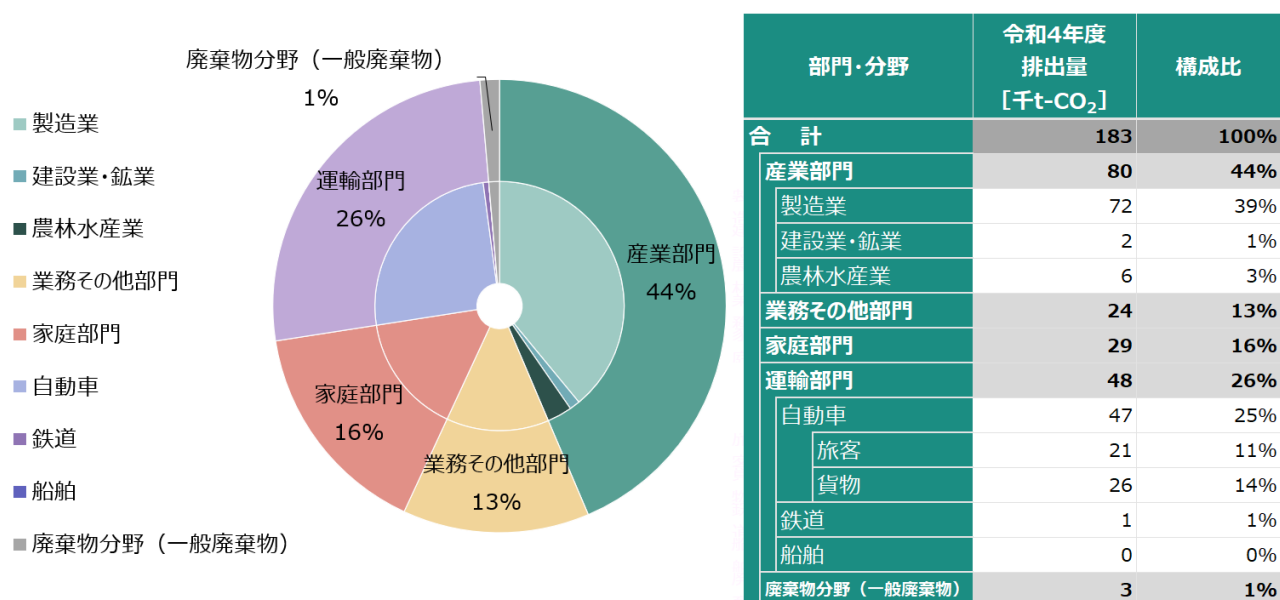
令和４年度（２０２２年度）環境省「自治体排出量カルテ」によると市内のCO₂総排出量（エネルギー起源）のうち、最も大きな割合を占めているのは、製造業を中心とした産業部門の44%であり、これは飛騨市の地域経済の特性を反映しています。

しかし、市民一人ひとりの取り組みが直接的に脱炭素に貢献できる**家庭部門も、全体の排出量の約16%を占める非常に重要な部門**です。これまでの市民の皆様の努力により、**家庭部門からの排出量は平成17年度（2005年度）と比較して約21%の削減**を達成するなど、着実に成果を上げています。

一方で、今後2050年の実質ゼロを目指すためには、この家庭部門における削減をさらに加速させることが不可欠です。脱炭素の取り組みは「規制」や「我慢」ではなく、エネルギーの効率的な利用（省エネ）

や再生可能エネルギー（再エネ）の導入を通じて、暮らしを豊かにする「行動変容」であると捉えることが大切です。

<部門・分野別CO2排出量構成比 令和4年度（2022年度）> ※環境省：自治体排出量カルテより



（４）地球温暖化が飛騨市の未来にもたらす具体的な影響

地球温暖化は遠い国の問題ではなく、私たち飛騨市民の暮らしや、飛騨市の豊かな自然、そして地域経済にもすでに具体的な影響を及ぼし始めています。このガイドラインでアクションを起こす緊急性を理解していただくため、市内で顕著になっている影響と将来のリスクは以下のとおりです。

1. 気候変動と自然災害のリスク増加

飛騨市のアメダスデータ（気象観測システム）によれば、この過去30年間で年平均気温が約0.7℃上昇しており、気候の変化が明確に現れています。

- ・ **猛暑日の増加:** 真夏日や猛暑日の増加が顕著に見られます。これにより、市民の皆様の熱中症や感染症のリスクが高まり、冷暖房の使用が増えることによる家計負担の増加も懸念されます。
- ・ **降雪量の減少:** 冬季の降雪量が減少しており、雪を資源とするスキー場などの観光・レジャー産業に大きな影を落としています。
- ・ **気象災害の激甚化:** 短時間で急激に降る雨量の一部が増加するなど、気象が不安定化しており、豪雨による土砂災害や洪水といった気象災害の頻発・激甚化が最大のリスクとして予測されています。

2. 地域の特産品と生態系への影響

飛騨市の自然の恵みと、それによって支えられている産業にも深刻な影響が危惧されています。

- ・**農林水産物の品質への影響:** 飛騨牛をはじめ、**水稻、トマト、ほうれん草、果樹類、鮎**といった市の特産品において、生育不良や品質低下が心配されています。
- ・**森林資源の脆弱化:** 市域の約9割を占める森林のうち、人工林である**スギの脆弱化**が進む懸念があります。また、森林の高齢級化に伴い、CO₂を吸収する能力も今後減少していくことが見込まれています。
- ・**生態系の変化:** 豊かな山々や河川に生息する**ブナやイワナ**などの生息範囲の縮小も心配されており、飛騨市の誇る多様な生態系への影響が危惧されます。



平成30年7月豪雨災害

(国道41号 古川町数河地内)



トマトの不良果

(出典：農林水産省「地球温暖化影響調査レポート」)



スキー場の雪不足

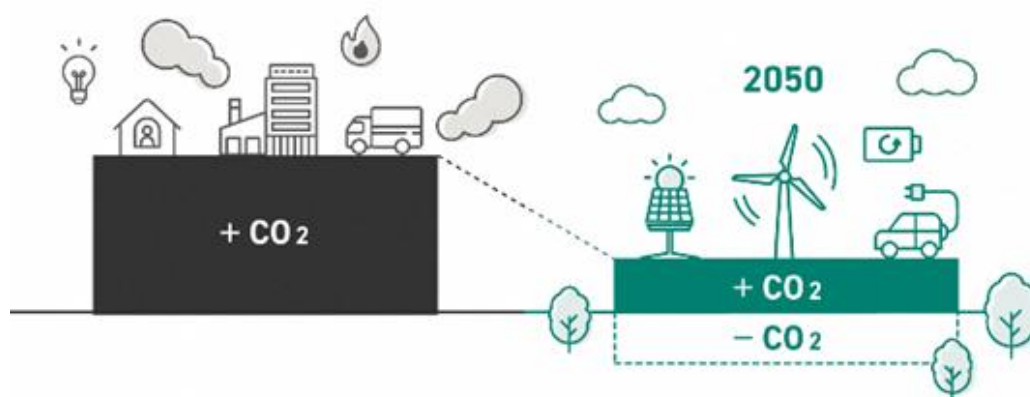
これらの具体的な影響を食い止め、豊かな自然を次世代に引き継ぐため、市民一人ひとりの脱炭素行動が求められています。

第2章 【知識編】ゼロカーボンと暮らしのつながり

（1）ゼロカーボンの基礎知識：排出量実質ゼロとは？

「実質ゼロ」が目指すもの

「飛騨市ゼロカーボンシティ宣言」で掲げた「2050年までにCO₂排出量を実質ゼロにする」という目標は、二酸化炭素（CO₂）をはじめとする温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにすることを意味します。これは「カーボンニュートラル」とも呼ばれ、単に排出をゼロにするだけでなく、排出せざるを得なかった量を「吸収」などで埋め合わせる考え方です。



（出典：環境省「脱炭素ポータル」）

具体的な「実質ゼロ」の仕組み

CO₂排出量を実質ゼロにするためには、大きく分けて以下の2つのステップが必要です。

1. 徹底的な削減

- ・電力や熱を使う際に排出されるCO₂（排出源）を極限まで減らします。具体的には、再生可能エネルギー（太陽光、水力など）を導入し、エネルギー効率の高い設備や製品（省エネ家電、高効率照明など）を使うことで、**家庭から出るCO₂を最小化**します。

2. 吸収による相殺

- ・どうしても削減しきれないCO₂排出量については、**森林によるCO₂の吸収**などによって相殺します。

飛騨市には豊かな森林があり、その吸収力を維持・強化していくことが、この相殺において非常に重要な役割を果たします。

私たちの役割

「実質ゼロ」は、行政や大企業だけでは達成できません。市民の皆様の小さな行動が、この「徹底的な削減」の大きな力になります。日々の省エネや、環境に配慮した製品選び、そしてごみの削減などが、2050年のゼロカーボン達成に直結するのです。

（２）飛騨市のエネルギー：省エネと再エネの基本的な考え方

飛騨市が「ゼロカーボン」を達成するためには、エネルギーの使い方を変えていく必要があります。その実行手段となるのが、「省エネ（徹底的な削減）」と「再エネ（クリーンなエネルギーへの転換）」という二つの柱です。

1. 省エネ（エネルギーを「賢く」使う）

省エネ（省エネルギー）は、エネルギーを無駄なく、効率的に活用することで、**使用するエネルギー量そのもの（＝排出量）を減らす**取り組みです。「我慢」ではなく、暮らしを豊かにする「賢い選択」です。

行動の柱	具体的な事例（市民アクション）	得られる効果・メリット
機器の効率化	古い家電（エアコン、冷蔵庫など）や給湯器等を、省エネ性能の高い製品に買い替える。	電気代・ガス代が直接的に節約できます。市による補助金制度を活用できる場合があります。
家の断熱化	窓や壁の断熱性能を高めるリフォームを行う。または、内窓や厚手のカーテンを活用する。	暖冷房効率が向上し、 快適な室温を保ちやすくなる とともに、エネルギー消費を大幅に減らせます。
習慣の見直し	照明をこまめに消す、冷蔵庫の設定温度を見直す、使わないコンセントを抜くなどの 日々の小さな工夫 を意識する。	手間なくエネルギーの無駄をなくし、どなたでも日常で取り組みやすい行動 です。

2. 再エネ（エネルギーを「クリーンに」作る）

再エネ（再生可能エネルギー）とは、太陽光、水力、木質バイオマスなど、**資源が枯渇せず、発電時にCO₂を排出しない**クリーンなエネルギー源への転換です。飛騨市の豊かな地域資源を活かした取り組みも重要となります。

行動の柱	具体的な事例（市民アクション）	得られる効果・メリット
自宅での導入	ご自宅の屋根などに 太陽光パネル を設置し、自宅で使う電気を 自給 する。	電気代の負担が軽減 されるとともに、災害時の非常用電源としても活用できます。
地域資源の活用	飛騨市が推進する 中小水力発電 などの地域に根ざした再エネ事業を応援する。	地域の資源を活かした地域経済の活性化 につながります。
電力の選択	電力会社を選ぶ際に、 再生可能エネルギー比率が高いメニュー を提供する会社に切り替える。	特別な設備投資なしに 、クリーンなエネルギー利用へ参加し、CO ₂ 排出量の削減に貢献できます。

この「省エネ」と「再エネ」の両方を組み合わせて実践することが、市民の皆様の暮らしの質を高めながら、2050年のゼロカーボン実現に向けた最も効果的な方法です。

（３）地域資源を活かすエコアクション：森林や水の恵みと脱炭素

飛騨市は、市域の約9割を森林が占め、豊かな水資源にも恵まれている「自然の宝庫」です。ゼロカーボンシティの実現は、この「飛騨市の宝」を未来へつなぎ、地域の資源を循環させることで、地域経済を活性化させるチャンスでもあります。

1. 森林の恵みを活かした脱炭素

飛騨市の森林は、私たちの排出したCO₂を吸収する「天然の吸収源」として極めて重要な役割を担っています。

・森林によるCO₂吸収源の維持・強化

- ・市民の皆様が森林保全活動に参加したり、適切に管理された地元の木材（飛騨材）を使用した製品を積極的に利用したりすることは、森林の健全な状態を保ち、**CO₂吸収力を維持・強化**することにつながります。

・地域の熱源・燃料資源の活用

- ・山から出る間伐材や未利用材などの**地域の森林資源**を、熱利用やエネルギー源として活用することは、化石燃料に依存しないクリーンなエネルギー利用です。
- ・これは、**地域の資源を地域で循環**させ、エネルギーの地産地消と地域経済の活性化に貢献する、持続可能な取り組みです。

2. 水の恵みを活かしたクリーンエネルギー

飛騨市を流れる清流は、古くから人々の暮らしを支えてきました。この豊富な水資源は、クリーンな電力源としても活用されています。

・中小水力発電の推進

- ・既存の農業用水路や河川に、環境に配慮した小規模な**中小水力発電設備**を導入することは、地域内に電力を供給し、化石燃料由来の電力消費を減らすことにつながります。これは、飛騨市が持つ水の恵みを最大限に活かした、地域協働型の再エネ導入モデルです。

3. 地域資源を守るエコアクション（ゴミ削減）

ゴミの削減も、大切な地域資源を守り、CO₂排出量を減らすエコアクションの一つです。

・徹底したゴミの分別とリサイクル

- ・ゴミを焼却する際には多くのCO₂が排出されます。飛騨市が定めるルールに基づき、ごみをしっかり分別し、リサイクルを徹底することは、**焼却量を減らし、CO₂排出量を削減**する効果的な取り組みです。

・食品ロス削減と生ごみ処理

- ・食品ロスを減らすことや、生ごみ処理機を活用して生ごみを減量・堆肥化することは、廃棄に伴うCO₂削減の観点からも、地域資源を守るうえで重要な取り組みです。

（４）市が推進する重点施策と市民の関わり方

飛騨市は、2050年ゼロカーボンシティの達成に向けて、市民・事業者・行政が連携する体制のもと、市民の皆様の取り組みを支えるための具体的な施策を重点的に進めています。

1. 市が率先して行うCO₂排出量削減（公共施設対策）

行政自らが脱炭素の推進役となるため、市役所、学校、公民館などの公共施設を対象に、CO₂排出量の削減を徹底します。

- ・高効率設備への更新：古くなった照明をLED化することなどで、公共施設の電力使用量の削減に努めています。
- ・次世代自動車の導入：公用車の更新時には次世代自動車の導入を含めた検討を進めています。
- ・再生可能エネルギーの導入促進：公共施設における再エネ導入に関して、各種手法を含めた検討を進めています。
- ・職員の行動意識：職員一人ひとりが地球温暖化対策実行計画（事務事業編）に基づく脱炭素行動を意識するとともに、定期に行動の振り返りを行っています。また、職員向けの研修会を開催するなど、意識醸成に取り組んでいます。

2. 家庭への省エネ・再エネ等導入サポート（導入支援）

市民の皆様が自宅で脱炭素行動に取り組む際の初期費用負担を軽減し、行動を後押しするための支援策を推進しています。

推進施策	サポートの内容（例）
省エネ機器の導入支援	省エネ家電製品や高効率な給湯器への買い替えを対象とした補助金制度を提供し、家庭の電気代節約とCO ₂ 削減を両立します。
生ごみ処理機等の支援	家庭でのごみ削減を促進するため、生ごみ処理機などの購入に対する補助金制度を実施しています。
次世代自動車の普及促進	環境負荷の低い電気自動車（EV）等への転換を促進するため、購入に対する補助金制度を実施しています。

3. 市民の行動を促す仕組みの構築（普及啓発とポイント制度）

脱炭素を「一部の人の特別な行動」ではなく、誰もが楽しく、気軽に参加できる「市民の新しい習慣」とするための仕組みづくりを進めます。

- ・**ひだゼロカーボンアクションポイント制度**：省エネや再エネ導入、リサイクルなどの具体的な脱炭素行動に対し、**ポイントを付与する制度**を構築します。（令和8年度中の市民向け運用開始を予定）
- ・**学校との連携**：未来を担う子どもたちが脱炭素を「自分ごと」として学び、行動を発信する**古川中学校マイプロジェクト**との連携など、次世代への普及啓発活動を積極的に継続します。

（5）飛騨市の未来を創る若者たちからのメッセージ（古川中学校連携事例）

未来の飛騨市を担う若者たちは、地球温暖化とゼロカーボンシティの実現を「自分ごと」として捉え、具体的な行動を起こし始めています。

飛騨市では、**古川中学校の生徒たち**が地域貢献活動「マイプロジェクト」の一環として、脱炭素を知り、行動を促進するための市民向けのガイドブック作成に協力してくれました。

生徒からのメッセージ（古川中学校生徒）

「脱炭素は難しいことではない。まず、楽しく学んで行動しよう！」

専門家の話を聞き、市内の発電所等を見学したことで、生徒たちの「環境問題は遠いもので理解しにくい」という認識が大きく変わりました。

- ・「**私たちが住む飛騨市にも、地球温暖化の影響がすでに出ていることが分かりました。**」
- ・「**マイバッグを利用するなどの簡単なことでも、ゼロカーボンにつながる事が分かりました。**」
- ・「**ゴミの分別など、普段の生活の中から意識を変えていきたいです。**」

生徒は、太陽光発電などの大きな取り組みだけでなく、ゴミの分別や食べ残しをしないといった、日常生活でできる小さな行動の積み重ねこそが、飛騨市の未来を守ることに繋がると確信しています。

本ガイドラインは、「楽しく、学びながら、無理なく」脱炭素に取り組むための実践の指針です。未来を創る生徒の想いを受け取り、市民全体でアクションを広げていきましょう。

第3章 【実践編】楽しく取り組むゼロカーボンアクション

（１）ひだゼロカーボンアクションの推奨：行動の理念とステップ

飛騨市が目指すゼロカーボンシティは、行政や事業者だけでは決して達成できません。主役は、**市民一人ひとり**の行動です。

本ガイドラインで推進する「ひだゼロカーボンアクション」は、市民の皆様に「我慢」や「義務感」を強いるものではありません。「日常生活の質を高めながら、無理なく脱炭素に貢献する」ことを理念とし、以下の3つのステップで、誰でも楽しく、継続的に取り組めるように設計されています。

ひだゼロカーボンアクションの3つのステップ

ステップ 1：楽しく学ぶ

まず、脱炭素を「難しい環境問題」としてではなく、「飛騨の自然と暮らしを守るための知恵」として知ることから始めます。

- ・ **具体的な行動**: このガイドブックを読み、なぜCO₂排出量削減が必要なのか、自分の行動がどう未来につながるのかを理解する。
- ・ **メリット**: 知識が増えることで、賢い製品選びや、光熱費を節約する生活のヒントが得られます。

ステップ 2：無理なく始める

日常生活の中で、すぐに、お金をかけずにできる簡単なことから実践してみましょう。

- ・ **具体的な行動**: 地域の分別ルールを守る、マイバッグやマイボトルを使う、冷蔵庫の設定温度を見直すなど、「デコ活」（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）で推奨されている行動から始めます。
- ・ **メリット**: 新しい習慣が身につき、ひだゼロカーボンアクションポイントが付与されることで、行動の成果が目に見えてわかります。

ステップ 3：大きな効果へつなげる

ステップ2で慣れてきたら、**家の設備や大きな買い物**を見直すことで、CO₂排出量を大幅に削減する行動に挑戦します。

- ・ **具体的な行動**: 高効率なエアコンや給湯器に買い替える、自宅の屋根に太陽光発電を設置する、電気自動車（EV）等の次世代自動車を選ぶ、自宅の断熱リフォームを行う。
- ・ **メリット**: 市の補助金制度を活用しながら、光熱費の長期的な削減、快適な暮らしの実現、そして地域全体の脱炭素化に大きく貢献できます。

行動の成果を「見える化」する

市民の皆様の行動は、今後運用を予定する「ひだゼロカーボンアクションポイント制度」によって「見える化」されます。小さな行動も大きな行動も、ポイント化がされ、**景品（エコグッズ、ゴミ袋などを予定）との交換**を予定しており、楽しみながらアクションに取り組むことができます。

この3つのステップを通じて、飛騨市全体で脱炭素の輪を広げましょう。

（２）日常生活でできる20のゼロカーボンアクション

本ガイドラインには、市民の皆様が今日から「楽しく・学びながら・無理なく」実践できる「ひだゼロカーボンアクション」20選を掲載しています。

アクション設定の主旨：日々の行動とCO₂削減を直結させる

選定されたアクションは、単なる環境対策ではなく、**皆様の暮らしの快適さや経済的なメリット**に直結することを重視しています。

1. 削減効果と実施頻度のバランス：

- ・CO₂削減効果が大きく、かつ家庭の光熱費削減につながる「省エネ」「再エネ導入」のアクション
- ・CO₂削減効果は小さくても、毎日取り組めて習慣化しやすい「日々のムダ削減」のアクション
- ・この両方のバランスを考慮し、誰でも継続できる内容を選定しました。

2. インセンティブとの連動（ポイント制度）：

- ・全てのアクションは、まもなく運用が始まる「ひだゼロカーボンアクションポイント制度」の対象となっており、取り組みに応じてポイントが付与されます。
- ・これにより、参加者の努力が**景品との交換**という形で目に見えて還元される仕組みとなります。

3. 国や地域のアクションとの連携：

- ・国の推進する「デコ活」（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）で推奨されている行動を多数取り入れ、全国的な取り組みと連動させています。
- ・また、飛騨市特有の課題であるごみ削減や、公共交通の利用促進など、地域の特性を踏まえたアクションも重点的に設定しています。

アクションの分類とねらい

別冊「ひだゼロカーボンガイド」では、アクションを以下の4つの主要なテーマに分類しています。

行動テーマ	ねらい
省エネ・再エネ	エネルギーの「使い方」と「作り方」を改善し、家庭で最も大きなCO ₂ 排出源を断つ。光熱費の削減効果も大きい。
リサイクル・ムダ削減	ごみの焼却量を減らし、資源の消費を抑制することで、製造・運搬・廃棄の全過程で発生するCO ₂ を削減する。
食品ロス削減	食べ残しや生ごみを減らすことで、ゴミ処理にかかるエネルギーとCO ₂ 排出を抑制する。地域の特産品を守る意識にもつながる。
移動のエコ化	マイカー依存を見直し、公共交通や徒歩・自転車を利用することで、ガソリン消費によるCO ₂ 排出を減らす。

これらのアクションの具体的な内容、期待できるCO₂削減効果等については、別冊「ひだゼロカーボンガイド」にてご確認いただけます。今日からできる一歩を見つけて、アクションを始めてみましょう。

（３）大きな効果を生むアクション：EV等次世代自動車・高効率機器への転換とメリット

日常生活の中で継続する小さなアクションに加え、CO₂排出量を大幅に、そして長期にわたって削減するためには、「大きな買い物」や「設備への投資」を見直すことが最も効果的です。

市は、特に削減効果の高い行動への転換を後押しするため、**環境課補助事業**をはじめとする支援策を重点的に展開しています。

1. 運輸部門：電気自動車（EV）等次世代自動車への転換

飛騨市におけるCO₂排出量のうち、運輸部門（自動車など）が占める割合をゼロにするには、ガソリン車から電気自動車（EV）等の次世代自動車への転換が不可欠です。

アクション	メリット	市の支援制度
電気自動車（EV）等次世代自動車への買い替え	走行中のCO ₂ 排出量が削減でき、 燃料費（ガソリン代）の節約 になります。	電気自動車購入助成金。 詳細は環境課へお問い合わせください。

2. 家庭部門：高効率機器への転換（重点支援）

家庭からのCO₂排出量の多くを占めるのは、暖房や家電の電力消費です。これらの機器を最新の高効率製品に切り替えることは、脱炭素と家計に大きなメリットをもたらします。

アクション	メリット	市の支援制度
省エネエアコンへの買い替え	暖房・冷房のエネルギー消費を大幅に削減します。特に使用頻度の高い機器であり、効果が大きいです。	省エネ家電製品買替補助金の対象です。詳細は環境課へお問い合わせください。
省エネ冷蔵庫への買い替え	24時間稼働する冷蔵庫の電力消費を最新モデルにすることで、継続的な電気の削減につながります。	
LED照明の導入	家庭内の古い照明を全てLEDに切り替えることで、電力消費を大幅に削減できます。	

これらの大きなアクションは、初期費用がかかる場合がありますが、**市の補助金制度**を活用することで負担を軽減できます。長期的に見れば、光熱費や燃料費の節約により、家計にも大きなメリットをもたらします。

（4）ひだゼロカーボンアクションポイント：制度の目的と市民へのメリット

飛騨市が推進する「ひだゼロカーボンアクションポイント制度」は、市民の皆様の自発的な脱炭素行動を促進し、「脱炭素を楽しく、お得にする」ための仕組みです。

この制度を通じて、市民一人ひとりの小さな行動が目に見える成果となり、ゼロカーボンシティの実現を力強く後押しします。

1. 制度の目的：行動への「インセンティブ」と「見える化」

本制度は、市民の皆様の環境意識を高めるだけでなく、具体的な行動を起こし、継続してもらうことを最大の目的としています。

- ・**意識から行動へ：** 環境問題に関心があっても、何をすればいいかわからない、または行動が続かないという課題を解消します。ポイント付与というインセンティブを提供することで、最初の一步を踏み出すきっかけを作ります。
- ・**頑張りの「見える化」：** マイバッグの使用や省エネ行動など、日常の地道な努力をポイントとして記録・蓄積します。これにより、自分の行動がどれだけ脱炭素に貢献しているかを実感し、モチベーションの維持につなげます。
- ・**地域全体への波及：** 制度への参加を通じて、市民全体に脱炭素行動の輪を広げ、地域全体でゼロカーボンシティ実現を目指す機運を醸成します。

2. 市民の皆様へのメリット

① 景品交換でお得に！

貯まったアクションポイントは、市が設定した目標ポイントに到達した際に、**市が用意する景品**と交換できる仕組みとなります。

- ・具体的な景品の例：エコグッズ、ゴミ袋など

② 家計にやさしい！

ポイント制度の対象となるアクションの多くは、電気代やガソリン代の節約に直結する「省エネ」「ムダ削減」行動です。

- ・**節約効果**： 高効率家電への買い替えや、こまめな省エネ行動は、ポイント獲得と同時に、長期的な光熱費の削減という実質的な経済的メリットをもたらします。

③ 参加が簡単！

アプリとカード（紙）の2種類の運用を想定しており、スマートフォンをお持ちでない方も気軽に参加できます。

- ・**アプリで手軽に**： アプリでアクションの記録、ポイントの確認、CO₂削減効果の確認などが手軽に行えます。
- ・**カードで安心**： スマートフォンをお持ちでない方も、本取り組みへの参加が可能となるよう、アクションを自己チェックいただける仕組みを構築します。

本制度は**令和8年度中の市民向け運用開始**を目指し、現在、準備を進めています。

【アプリでのポイント申請イメージ】



【特典のイメージ】



（５）ひだゼロカーボンアクションポイント：ポイント付与の仕組みとルール

ひだゼロカーボンアクションポイント制度は、市民の皆様の幅広い取り組みに対してポイントを付与できるよう、行動の種類に応じた付与方法を採用します。

1. ポイント付与の主な仕組み

付与方法	対象となる行動の例	運用の特徴
① 自己申告	日常的に継続する「無理なく始める」アクション	例: マイバッグ利用、テレビを見る時間の短縮、徒歩での移動
	ルール: アプリや専用のカード（紙）で、ご自身でアクションを実践した回数を入力（申告）していただきます。	
② 二次元コード読取	市の施設への来場や特定のイベント参加、設備導入など、 実施が特定できる アクション	例: リサイクルセンターへの資源ごみ持ち込み、市主催の環境イベント参加、特定補助事業の額確定時
	ルール: 行動実施場所や施設に設置された二次元コードや対象となる補助事業活用時に配布される二次元コードをアプリで読み取ることで、ポイントが付与されます。	

2. 制度のルールと参加方法（令和8年度中の運用開始予定）

- ・参加資格： 中学生以上の飛騨市民の方であれば、どなたでも参加可能です。
- ・参加方法：
 - ・アプリ（スマートフォン）： アプリをダウンロードして登録することで、簡単にポイントの記録・確認等の手続きが行えます。
 - ・カード（紙）： スマートフォンをお持ちでない方や、アプリ利用が難しい方向けに、紙のカード（記入用紙）を用意し、ポイントを蓄積できる仕組みを整えます。
- ・運用ルール（上限設定）：
 - ・一部のアクションについては、公平性やCO₂削減効果の妥当性を考慮し、「日に1回まで」や「年に数回まで」など、ポイント付与に上限を設けます。

本制度の詳細な開始時期、景品の内容、具体的な申告方法については、運用開始前に改めて市のウェブサイト等でお知らせします。

（６）ひだゼロカーボンアクションポイント：ポイントの利用方法と地域内経済循環への貢献

ひだゼロカーボンアクションポイント制度は、単に環境行動を促すだけでなく、市民の皆様の行動を起点として、地域経済を活性化させる「地域内経済循環」を生み出すことを目指しています。

1. ポイントの利用方法：行動の成果を「景品」として還元

貯まったポイントは、市が設定した景品交換ラインに達した場合に、市が用意する景品と交換することができます。

・ 交換対象:

- ・ 脱炭素行動をさらに促進するためのエコグッズなど
- ・ その他、ゴミ袋などを予定

- ・ **景品交換の目的:** 市民の皆様の取り組みとその成果をしっかりと評価し、脱炭素が「お得で楽しい」ものだという認識を広めていきます。

2. 地域内経済への貢献:

このポイント制度の重要な役割は、市民の環境行動を、地域内経済循環へつなげる仕組みを構築することです。

・ 行政による脱炭素行動への補助支援等:

- ・ 市は、ポイントにつながる脱炭素行動を促進するための各補助制度等の支援を行います。
- ・ ポイント制度に基づく補助支援は、市民の脱炭素行動をきっかけに、地元事業者を活用することなどで地域に利益をもたらし、地域内の経済循環を活性化させます。

・ 脱炭素と地域経済の両立:

- ・ 市民が環境に良い行動（例：省エネ）を実践する
- ・ → ポイントが貯まる
- ・ → 補助金を契機とした事業が地域経済へと還流する
- ・ → 脱炭素行動が市内に浸透することで、環境配慮事業・脱炭素関連事業が拡充し、市内経済も好循環へ繋がる

（７）市民のアクションが創る飛騨市の未来

飛騨市が目指す「2050年ゼロカーボンシティ」は、決して遠い目標ではありません。それは、市民の皆様一人ひとりの日常的な行動と、行政が提供する支援策が一体となることで、確実に実現できる未来です。

アクションの「3つの柱」

このガイドラインが示す「ひだゼロカーボンアクション」は、以下の3つの柱で構成されています。

1. 「楽しく・無理なく」始める日々の行動：

別冊「ひだゼロカーボンガイド」に記載された20の身近なアクション（省エネ、リサイクル、食品ロス削減など）を実践することが、脱炭素の第一歩です。

2. 大きな効果を生む設備への転換：

電気自動車（EV）などの次世代自動車や、省エネ性能の高いエアコン・冷蔵庫・LED照明への買い替えは、CO₂排出量を大幅に削減します。これらに対しては、市による補助金制度を活用し、家計の負担を軽減しながら転換を進めることができます。

3. 継続を支えるポイント制度：

日々の行動は「ひだゼロカーボンアクションポイント」として見える化され、市が用意した景品と交換できます。この制度が浸透していくことで、脱炭素行動をきっかけとした、地域経済の循環につながっていくことが期待されます。

あなたの行動が、飛騨市の「宝」を守る

豊かな森林と清流に恵まれた飛騨市にとって、脱炭素は自然環境を守り、地域経済を活性化させるチャンスです。

脱炭素を「自分ごと」として捉え、生徒たちのメッセージにあるように「楽しく学びながら」取り組みを始めることが、未来の飛騨市を創ります。

このガイドラインを手に、今日から「ひだゼロカーボンアクション」を始めましょう。

(参考資料)【ひだゼロカーボンガイド掲載の20のゼロカーボンアクションの環境効果と経済メリット】



カテゴリ	No	対象行動	削減金額	単位
無理なく省エネに取り組もう	1	エアコンを使用する時間を1時間短くする	21	円/回
	2	テレビを見る時間を1時間短くする	1	円/回
	3	家庭でクールビズ・ウォームビズに取り組む	14	円/回
	4	冷蔵庫の温度を高く設定して使用する	5	円/回
暮らしの中のムダをなくそう	5	宅配便を1回目の配送で受け取る	10	円/回
	6	節水型シャワーヘッドの導入	11,517	円/年
リサイクルに取り組もう	7	ごみを分別してリサイクルに出す	29	円/回
	8	飛騨市リサイクルセンターへ資源ごみや不用品を持ち込む	202	円/回
	9	衣類定期回収への参加	1,469	円/回
繰り返し使えるものを使おう	10	再利用可能な買い物袋(マイバッグ)を使用する	1	円/回
	11	再利用可能な水筒(マイボトル)を使用する	6	円/回
補助金を活用して再エネ・省エネ製品を導入しよう	12	住宅用太陽光発電設備設置	53,179	円/年
	13	LED等高効率照明の導入	2,876	円/年
	14	エアコンの買い替え	7,388	円/年
	15	冷蔵庫の買い替え	11,413	円/年
食品ロスや生ごみを減らそう	16	食べ残しせずに食べきる	1	円/回
	17	家庭用生ごみ処理機等の導入	1,037	円/年
移動をエコにしよう	18	エコドライブを実施する	20	円/回
	19	公共交通機関や徒歩・自転車で移動する	68	円/回
市が行うゼロカーボンアクションに参加しよう	20	市のイベント等で環境ブースを訪問		

※参考資料：環境書「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしの10年後」及び「デコ活データペース」より算出

ひだゼロカーボンガイドライン

(令和7年12月策定)

飛騨市役所 環境水道部 環境課